

平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立 光成中 学校 学級数 3

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標

自ら判断し、主体的に行動できる生徒の育成

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

1 具体的な取組

- 1) 「学習評価を指導の充実に生かす」
→各教科で、授業評価を行い授業改善に生かしている。
- 2) 「学びのフィールドづくり」という観点から
→朝読書の実施，言語環境を整える指導。

2 取組の位置付け

教務が取り組みの中心となり，進めている。

取組の成果と課題等

○ 取組の成果

- ①各教科における授業評価の取り組みから，基礎的，基本的な知識・技術の定着化を図るように各教科で鋭意努力を行い，効果を上げてきている。しかし，十分な結果を出し切れず，取り組みは継続中である。
 - ②行事等の実態に応じ，教育課程運用の工夫（週時程・時間割等）を今まで以上に改善実施し，授業時数の確保に努め，学習指導の充実に努めた。
 - ③英数のTT並びに習熟度別少人数指導により，特に下位層の生徒ひとりひとりの学習指導に少しずつ効果が見えはじめ，学習への関心意欲の向上に役立っている。
- ①朝読書を実施し，落ち着いた一日の学校生活に向かう生徒が増えた。これは，基本的な生活習慣の形成がはかられ，学習環境の向上につながる要因の一つとして大きな成果であるといえる。今後も画一化しないように工夫しながら継続してゆきたい。
 - ②学習の習慣化を図るために，家庭学習の手引き並びに家庭学習の記録に取り組み効果を上げ成果が見られたが，定着までにはいたっていない。

○ 教育課程検証の方法

- ①教務部が中心となり，運用状況や運用の工夫・改善にあたっている。
- ②授業評価を校内研修の一貫として取り組み，全教員が共通理解をして生徒の現状と課題把握を行い，授業改善や今後の指導の方向性を明確にできるように努めている。
- ③学校評価（内部評価）や生徒のアンケート，保護者アンケートにより，生徒自身の自己評価や学校に対する要望，保護者の子どもや学校への期待を確認し，検証，改善に役立っている。